

まめもやし

特定非営利活動法人 東九条まちづくりサポートセンター

第66号

目次

- P.2~P.3 在日2.5世の語りから
金辰夫さん 2回目
- P.3 団地の風景から
- P.4 めばえーる,東九条を学ぶ
- P.5 団地会,よるカフェ,和音情
- P.6 さまざまな活動



支持会員になってください!

ぜひ「まめもやし」の会員とな
って、支えてください。
会員には機関紙をお送りします。
会費：個人（年間）10,000円
団体（年間）20,000円

随時、一般寄付やクリスマス募金
を受け付けています。

振込先 郵便振替

00980-2-157105

特定非営利活動法人 東九条まち
づくりサポートセンター

今回は東松ノ木団地の冬
景色がテーマです。

◀団地の敷地には南天
（なんてん）がたくさん
自生しており、冬になる
と赤い実をたくさんつけ
ます。南天を自宅に飾り
たいと数本を摘み取る団
地住民

▼（写真左下）2月の一番最初の会食は毎年恒例
のキンパッ。たくさん準備しています。

▼（写真右下）ガーデニングが趣味の住民が植えた
葉牡丹。花壇に色とりどりを添えてくれます。



お知らせ!

まめもやしのHPを始めました!
若手の情報発信の場や
HP上からクレジットカードで
寄付をすることができます。
是非ご確認ください!

SCAN
ME



まめもやしとは

1987年から東九条キリスト者地域活動協議会（HEAT）では、若手キリスト者
が中心になって在日コリアンが多く住む東九条のまちづくり活動を支援してき
ました。「40番地」跡に「東松ノ木団地」が完成したことにより、1999年にNPO
法人を設立、東松ノ木団地（市営住宅）の管理業務、生活支援を京都市から事業
委託（再委託）されることになりました。そのほか、地域の歴史の良さを伝える
ための活動もしています。安くて栄養があり、朝鮮料理に欠かせない存在であり
たいという思いから、愛称は「まめもやし」としました。

編集・発行

特定非営利活動法人 東九条まちづくり
サポートセンター（愛称:まめもやし）
601-8013
京都市南区東九条南河原町3
TEL: 080-6155-0273
FAX: 075-672-5969
E-mail: npo.mame@gmail.com

在日2.5世の語りから
金辰夫（キム チンブ）
 さん 第2回

2025年9月3日中山和弘撮影
 ▶金さんの自宅にて。団地に来てからのこと、家族のこと、好きなことなど色々なことを話してくれました（20



- 1952年 京都市南区東九条で出生
- 1958年 40番地（鴨川堤防部分）に転居
- 1965年 父が胃がんで死去（44歳）長兄が40番地で父の鉄工所を継ぐ
- 1969年 鉄工所を手伝う。この頃から精神科に通うがすぐやめる
- 1972年 名古屋栄、大阪難波、東京新宿歌舞伎町のパチンコ店に各2年住み込みで働く
- 1979年 東京にいた時に同棲、2年で別れる
- 1982年 次兄の鉄工所（宇治）を手伝う。すぐ名古屋に逃げて同棲、2年で別れて40番地に戻る
- 1992年 母が肝臓がんで死去（64歳）その後弟と精神科に通う
- 1999年 同棲、東松ノ木団地に転居、その後別れる
- 2010年 精神科に通う。飲酒、服薬、生活、生活費管理が不安定、まめやしと住民で見守る。
- 2015年 障害サービスでヘルパー利用、その後介護保険に移行
- 2022年 弟が死去
- 2025年 団地自治会役員になる

辰夫さん2回目です。今回は東松ノ木団地に引っ越してからの話や弟さんのことについてなど、一部インタビュー形式でお伝えします。（村木）

●**団地に転居後仕事ができなくなる**

一東松ノ木団地の2棟が完成した時、7歳離れた弟さんの部屋が用意されましたが、その頃弟さんは入院中で、辰夫さんがその部屋に居候していました。

「それまでは（宇治の）兄貴の鉄工所に毎日行っていた。」

一そのあと、弟さんの部屋に彼女と居候してたけれど、別れることになったんですね。

「嫁（彼女）に子供おったしな。子供とうまいことできんかったん。その娘が18歳やってんな。考え方とか、することなすこと、全部正反対やねん。嫁が中に入って止めんねんけど口喧嘩になってしまうねん。」

（別れた後だんだん）睡眠不足になって、精神的にちょっとおかしくなってしまう。ほんで精神科の病院に行くと薬もらうようになった。入院するほどでもないし、

通院してた。

その頃から兄貴のところ（工場）は週に1回くらい行っとった。そのあと全然仕事しなくなった。それでAさん（当時の自治会長）が、それじゃあ困るしなって、生活保護申請してくれた。」

●**弟さんとの関わり**

「弟とは仲悪かった。小さい時からしょっちゅうケンカしてた。弟がすぐ切れんねんか。」

一弟さんが統合失調症になったのはいつぐらい？

「病院に行ったのはお母ちゃんが死んでから2、3年してから。弟はお母ちゃんが好きやった。」

一弟さんが亡くなったのは2022年。お母さんは弟さんのことを大事にしてはった？

「そやな。一番下やから大事にしてたな。」

弟は小さい時から様子がみんなとちょっと違うところがあった。（でもその時は病気やと）思ってなかった。小学校3年から6年まで特別支援学級やってんか。ほんで中学になって、兄貴に教えてもらって、猛勉強で高校に合格した。でも高校1年で辞めてしもた。学校辞めて兄貴の工場手伝ってた。掃除もしよったし、サンドペーパーってな、鉄磨くやつ。あれを専門的にやってたん。で、兄貴も任せるわ言うててん。それがあの日、工場で（人間関係のトラブルで）弟が腹立って辞めよって。そっから荒れ出した。（堤防の）家の家財道具壊したり、近所の鶏小屋を斧でつぶして。で自治会長が病院行けて。で入院した。

（その後）韓国の施設に6年ぐらいいって。（そこもいろいろあって）京都に連れて帰ってきて、また病院に行くようになった。」

一辰夫さんは弟さんの病院にはよく行ってましたね。

「行ってた。1回行ったらこづかい5000円やっててん。好きなもん買うのにそれくらいいるやろう思ってた。で弟もそれ当てにしとった。それからわしが弟に小遣いもやれんようになって（やれなくなって）しもて、姉が弟の病院に行き出した。」

一弟さんが入院してから辰夫さんは弟さんといろんなおしゃべりができましたか？

「お母ちゃんのこととか、お父ちゃんがどうやったのかな。結局、弟はその病院で亡くなった。糖尿で足が動かんようになって。車椅子になってそれで肝臓がんになって亡くなった。」

弟は、兄や姉にも世話になって、兄弟には恵まれてたなあ。」

一辰夫さんは弟さんの調子が悪くなってから亡くなる前まで、また病院に顔を見に行ってたんですね。

「うん、行ってたな。」

●**子どものころから歌うのが好き**

一辰夫さんは昔から歌が上手でしたよね。

「たまにちゃんとカラオケ行くねんか。2人で2000円ちょっと。ドリンクもアイスクリームもただやし。四条河原町まで。」

一いつから歌い出したんですか？

「小さい時、のど自慢ってあったやんか。あれによい出てお菓子とか果物もうててん。ハットリ(酒店)の裏に地蔵盆あってんか。そこにお地蔵さんあって。で歌うまいねて言われて調子に乗って。島倉千代子の「この世の花」とか、昔の歌ばかりな。」

中学の時にNHKののど自慢大会に出た。大阪まで行った。それで準優勝になって。ほんで東京に行って歌手になろうと思った。19か20歳ぐらい。高校出て、先生紹介しもうて、歌のレッスンして。けど君の声で

は歌手無理やなて言われて、それで断念して帰ってきた。声はええけど、息が続かへん、ビブラートがないて。レッスン1回 35,000円。1回の練習で3時間ぐらい。その時はパチンコ店で働いてた。』

●事務所や団地住民との関わり（村木）

ある日の管理事務所前の様子。辰夫さん（写真左から2番目）はいつもどんな人とも楽しくおしゃべりしてくれるムードメーカーです。（2025年1月16日）



弟が亡くなって以降も、辰夫さんはあちこち歩き回ったり、友達とお酒を飲む日々が続きました。ある日、お金がなくなって電気が切れて、3棟の一階エン

トランスでご飯を炊いているのを自治会の役員さんが見つけて私たちに知らせてくれました。それまでも、堤防時代から世話になっていた（母の友達の）Kさんがよく辰夫さんの家に食べ物の差し入れをしたり声をかけていて、Kさんは事務所に来て、部屋の整理ができていないなど、辰夫さんの生活上の問題を私たちに伝えてくれていました。徐々に集会所の会食に来るようになり、成年後見人に金銭管理をしてもらったり、障害サービスでヘルパーが関わってくれるようになってからは、事務所に来ることが増えてきました。

現在は介護保険サービスを利用し、成年後見人とまめもやしスタッフに金銭管理をもらい、毎週会食に参加して日々の生活を送っています。また今年度から自治会役員になって、掃除の手伝いをしたり、（高石）文一さんやオモニたちに声をかけたりして団地住民との関わりを増やしています。辰夫さんはもともと人懐っこい性格なので、事務所前でコーヒーを飲みながら他の人とおしゃべりすることも多く、日々団地住民との関係性を深めています。

生活上の課題を持ちつつも「放っておけない」と思わせる性格の辰夫さん。一人暮らしでも住民たちと互いに声をかけ、手伝いあって、団地の見知った人とゆるくつながって生きていく、そんな形を辰夫さんはこれからも示してくれると思っています。（おわり）

団地の風景から

オモニの底力！

92才になるニューカマーのオモニ、認知症になりながらも10日間ショートステイ、4日間はヘルパーや訪問看護を利用しつつ団地で過ごすというスタイルで元気に生活しています。そんなオモニの底力を垣間見たエピソードを紹介します。

まだまだ暑い10月の上旬のある日の朝、ある団地住民が1人で外出する彼女の姿を見たことを教えてくれました。管理事務所に入出入りする中でオモニの存在や暮らしの状況を知り、いつも気にかけてくれたみたいです。

その日はヘルパーが訪問する予定だったので、お昼前にオモニが帰ってきていないか確認しにお家へ行くとオモニの息子が出てこられました。息子は普段は韓国で暮らしていて、日本で1人で生活しているオモニを心配して、わざわざ日本まで時どき様子を見に来ています。息子に事情を伝えると「朝出掛けたのは知っているが、まだ帰ってきていない。どこかで道に迷ってるかもしれないし近くを探してみます」と言われました。そこでスタッフがオモニがよく行く整形外科に電話して

みると、「〇〇さん（オモニの名前）は先ほどまでいましたよ」と教えてくれました。とりあえずオモニの動向がわかり一安心。そのことを息子に伝えると迎えに行くため出かけました。

しかし2人が団地に帰ってきたのは1時間ほど後でした。ずいぶん時間がかったので、息子さんに何があったかを聞きました。すると整形外科の近くで歩いているオモニを見つけたが、団地方向とは逆に歩いていくので、普段の様子が気になったので声をかけずに後ろからずっと様子を見ていたそうです。するとオモニはコンビニに行き、食べ物をたくさん買い、団地に帰ろうとしたみたいです。そして団地前で偶然を装ってオモニに声をかけ、ここまで2人で帰ってきたそうです。スタッフがオモニに「たくさん買い物しましたね。」と聞くと「息子がな帰って来てるけど、今は自分で料理とかできんやる。だからお店で買ってきてん。」と、オモニなりに息子を気遣ったゆえの行動でした。

約2km（徒歩約30分）の道のりを90歳超えても歩き、息子のご飯を心配するオモニの底力を目の当たりにしました。それだけでなく、オモニを見守る息子や団地住民、かかりつけ医、まめもやしスタッフの存在など、認知症になってもその人らしく暮らし続けるために必要なものがこの東松ノ木団地と周辺地域に存在しているんだと実感した1日でした。



団地に帰ってきたオモニとスタッフ。手押し車にはたくさんのお食べ物。（2025年10月15日）



▲オモニが歩いたルート（推定）。オモニがよく行く整形外科まで団地から片道約800m。

めばえーる事業

寄付・応援してくださったみなさんに感謝です！

今年度、新たに挑戦しためばえーる事業は、みなさまの温かいご支援により、無事に目標金額を達成することができました。心より感謝申し上げます。

【東九条で「共に生きる」社会を考えるため、まちを歩き、対話する場づくり】として取り組んだクラウドファンディング型ふるさと納税の仕組みが難しくもあり、開始当初は「集まるかな…」と不安もありました。1年通じての活動発信、日頃からのみなさんの応援や情報のシェアに支えられました。今回は、年間通じた、まめもやしの動きと、取り組みの一部をご報告します。

4月
めばえーる事業申込み

6月
プロジェクト
ページ作成



まちづくり 京都府 京都市

東九条で「共に生きる」社会を考えるために、まちを歩き、対話する場づくり



for 多様な価値観



7月23日
寄付受付期間

8月
若手トークを収録



東九条で働く・関わる人

12月に、東九条で働く人・関わる人を対象に、開催しました。スタッフを含め9人といつもより小人数だったので、自己紹介やそれぞれの東九条との関わりについて、じっくり話し合うことができました。この日は、故郷の家・京都、エルファの協力を頂き、感謝です。



▲地域集会場にて自己紹介中 (2025年12月13日)

2026年1月23日
▲提防治いを歩く様子



南区ネットワークづくり

「南区のネットワークをもっとつくりたい！」そんな想いで、南区社会福祉協議会、障害者地域生活支援センター「らくなん」、南区役所の職員と交流を兼ねたフィールドワークを開催しました。11人の参加があり、地域の歴史や、まめもやしの活動紹介。挨拶することの重要性や人と人が関わるうえでの大切にしていることを共有する時間にもなりました。

今回のめばえーる事業を通じて、改めてまめもやしには心強い応援者がいることの再確認と、新たな方々へ知って頂く機会になりました。今後も、いただいたご支援を大切に活用しながら、東九条の地域でともに歩む活動を続けていきたいと思っております。引き続き、応援よろしくお願いたします。

8月
・暑中見舞い発送
(若手トーク掲載)

・ホームページ作成
→QRコードからどうぞ



9月30日
寄付受付
終了

100%達成

東九条を学ぶ

武蔵野大学 出張講座

韓国慶北大学 フィールドワーク

10月に東京の武蔵野大学にて、多文化共生ソーシャルワーク論の出張授業を行なってきました。そして、11月には韓国の慶北大学から大学生や教授、30人が来られました。

地域や国を超えて、東九条の歴史や、多文化について学ぶ場を作ることができました。



武蔵野大学で講義する村木 (2025年10月17日)



最後に集合写真 (2025年11月23日)

きょうと・団地会

京都市の団地の未来を語りあう

京都市内の市営団地内で活動をしている福祉事業所等とのネットワークづくり等を目的に発足。2025年3月に第1回を行ない、団地に関わる事業所だけではなく、熱意ある京都市の職員も参加しています。そのため第4回目の11月はまめもやしプレゼンツと称し、ワークショップを開催しました。

それぞれが今気になっているテーマや、話し合いたいことなどを紙に書いて、グループで話して、大盛り上がり！「住民主体の場づくりとは？」「団地の可能性」など2時間半にかけて大盛り上がりでした。それぞれの活動内容を聞いて、東松ノ木団地でも、住民のために取り組めることを模索していきたいと思えます。



◀▲グループワークの様子（2025年11月7日）

東松ノ木よるカフェ

元九条診療所ナース 山本美千江さんの語りから

第3回となる東松ノ木よるカフェ。夜ご飯を住民さんと食べる機会をつくりつつ、ゲストを呼んで話を聞く。過去について学び、東九条について理解を深め、また参加者のみなさんとこれからについて一緒に考える企画として行っています。

この日のメニューはトック。寒い時期になったら食べたくなりますよね～。

そして登壇してくれたのは、40年近く九条診療所で看護師として勤め、地域医療に携わってきた山本看護師。話をぜひ聞きたいと東九条以外からもたくさんの方が来てくれました。先輩たちが大事にしてきたネットワークを引き継いでいきます。



▲手作りトック(11月25日)



▲これまでの経験を語る山本さん（左の写真、右から2人目）(11月25日)

和音情

毎年恒例！ハーモニカの美しい音色と素敵な衣装

2014年から始まった韓国釜山のハーモニカグループ「和音情」の演奏。いつもは昼に到着して軽く食事を取ってすぐ演奏し、そのあと故郷の家・京都に移動していましたが、今回は11時から演奏、その後一緒に食事ができるようになりました。今年は扇の舞、戦時中の日本の歌、韓国民謡などの披露に、オモニたちは手を動かしたり口ずさんだり。食事中は、ボランティアの井上さんと住民の一人が通訳したり、代表の金さんが簡単な日本語で話してくれ、手振り身振りも交えてのコミュニケーションでした。元気な和音情のメンバーにパワーをもらった一日でした。



◀地域集会場でのハーモニカの演奏と踊りの様子(12月5日)

さまざまな活動①

京都モアネット20周年記念シンポジウムを開催します 「京都発多文化共生のまちづくりのヒント」2/28(土)

2006年に発足したモアネットは、3月で20周年を迎えます。

モアネットは、外国にルーツのある人たちが地域生活の中で抱える課題に向き合い、京都市との協働事業として寄り添い支援を行ってきました。

日本で暮らす在日コリアンをはじめとする外国人は、長年、社会保障制度を受けられなかったこと、言葉や文化、歴史的背景の違いにより、医療や福祉サービス等につながり難い状況がありました。

そのような背景に理解のある「多文化福祉委員」が活動を続けて、京都市内で支援のネットワークを広げてきました。

一方、多様なルーツを持つ住民の増加と財政状況の厳しさが重なり、活動は転換期を迎えています。

今回のシンポジウムでは、20年の活動を振り返り、支援の意味やつながりの大切さ、ネットワークの重要性、共生のあり方についてみなさんと考えたいと思います。

多様なルーツを持つ人がともに暮らす地域社会をどう作っていくのか。語り、学び合う場にしたいと思います。

みなさんのご参加をお待ちしています。

モア20周年記念シンポジウム

参加費無料/オンライン同時開催



第一部 モアネット20年のあゆみ 石川久仁子 [大阪人間科学大学 教授]

シンポジウム 多文化福祉委員活動の報告

- | | | |
|---------------------|---------------------------|-------|
| 14:00
~
15:15 | 01 アメリカ人独居高齢者への関わり | 山口恵子 |
| | 02 施設入所者在日コリアン2世への関わり | 南珣賢 |
| | 03 フィリピン人女性と夫と2人の子どもへの関わり | 村木美都子 |

第二部 みんなで考えよう

さまざまなルーツの人が共生できるまちは

15:30
~
17:00

コメンテーター 朝倉美江

金城学院大学人間科学部教授、博士（社会福祉学）
著書に『多文化共生地域福祉への展望 多文化共生コミュニティと日系ブラジル人』（単著、高菅出版）、『多文化福祉コミュニティ 外国人の人権をめぐる新たな地域福祉の課題』（共編著、誠信書房）など

閉会の挨拶 加藤博史 [龍谷大学名誉教授・モアネット共同代表]

会場

龍谷大学深草キャンパス
和顔館地下1階 B108号室



お申し込みフォーム

申し込みフォームが読み込めない場合は、問い合わせ先へご連絡ください。

URL: <https://forms.gle/cUTuXdxStLKLx5TJ9>

▼ オンライン参加の方は、締め切り前にお申し込みください。【締切：2月20日(金)】

▼ 会場参加の方は、当日参加も可能です。

▼ 手話通訳やその他何か配慮が必要な方は、申し込みの際にお知らせください。可能な範囲で対応いたします。



京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク 「モア」

右のQRコード、もしくはメールにて申し込み受け付けております。
興味のある方はぜひご参加ください！

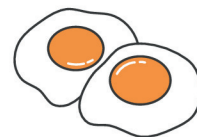


さまざまな活動②

ウトロ平和祈念館「一緒に食べる！-トックの日-」

お正月明け初日の開館日、祈念館1階で「トックの日」をしました。子どもは無料、大人は投げ銭。料理人は最近料理にはまっている副館長、指導はウトロのオモニ。副館長、「トックは何分くらいゆがいたらいいですか？」オモニ「やわらかくなるまで。」副館長「笑。」オモニの「卵は黄身と白身に分ける」というこだわりの指示のもと、ボランティアさんがきれいな錦糸卵を作ってくれました。食べに来てくれた子ども「カムサハムニダ！（ありがとうございます）」に、スタッフは「おーー」と感動の声。

「食」でつながる楽しい祈念館のひと時です。



▶カウンター越しにやりとりするオモニと副館長



▶オモニたち「うん、おいしい！」
奥で子どもたちも一緒に食べています

●編集後記 今回のニュースは団地外へ向けた発信活動が多くなり、まめもやしがこれまで大切にしていたことを団地の中で続けること、この団地以外にも波及していくために発信していくこと、このバランスを取るのに日々頑張っています（いとう）